

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201305810010E1	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール		
編集担当教員	林 徹		
授業担当教員名(科目責任者)	林 徹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	林 徹		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス	thaya@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	本館627研究室		
担当教員TEL	095-820-6368		
担当教員オフィスアワー	講義中に案内します。		
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法（学習指導法）	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション（教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など）、プレゼンテーション（わかりやすい資料、話の構成、説得力など）、レポート（構成、文章表現など）により総合的に評価する。 （詳細は各クラスの担当教員の指示による）		
受講要件（履修条件）			

本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201305810010E2	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール		
編集担当教員	森保 洋		
授業担当教員名(科目責任者)	森保 洋		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	森保 洋		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス	moriyasu@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所 313号室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	月曜日 午後6時～7時		
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法（学習指導法）	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション（教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など）、プレゼンテーション（わかりやすい資料、話の構成、説得力など）、レポート（構成、文章表現など）により総合的に評価する。 （詳細は各クラスの担当教員の指示による）		
受講要件（履修条件）			

本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201305810010E3	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール		
編集担当教員	岩田 安晴		
授業担当教員名(科目責任者)	岩田 安晴		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	岩田 安晴		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス	連絡先等は履修登録者に通知済		
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法（学習指導法）	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション（教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など）、プレゼンテーション（わかりやすい資料、話の構成、説得力など）、レポート（構成、文章表現など）により総合的に評価する。 （詳細は各クラスの担当教員の指示による）		
受講要件（履修条件）			

本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201305810010E4	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール		
編集担当教員	笹川 篤史		
授業担当教員名(科目責任者)	笹川 篤史		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	笹川 篤史		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス	sasagawa@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部東南アジア研究所318号室		
担当教員TEL	095-820-6331		
担当教員オフィスアワー	木曜日午後（事前にEメールで予約を取ってください。）		
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法（学習指導法）	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション（教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など）、プレゼンテーション（わかりやすい資料、話の構成、説得力など）、レポート（構成、文章表現など）により総合的に評価する。 （詳細は各クラスの担当教員の指示による）		
受講要件（履修条件）			

本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201305600010E5	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー		
編集担当教員	林川 美由樹		
授業担当教員名(科目責任者)	林川 美由樹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	林川 美由樹		
科目分類	共通基礎科目、共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス	hmiyuki@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	本館610		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	月曜日18時から19時30分		
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法（学習指導法）	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション（教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など）、プレゼンテーション（わかりやすい資料、話の構成、説得力など）、レポート（構成、文章表現など）により総合的に評価する。 （詳細は各クラスの担当教員の指示による）		
受講要件（履修条件）			

本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木6
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20130582001050	科目番号	05820010
授業科目名	●情報基礎		
編集担当教員	鈴木 斉		
授業担当教員名(科目責任者)	鈴木 斉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鈴木 斉		
科目分類	情報科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館MS 1		
対象学生（クラス等）	経済学部夜間主コース		
担当教員Eメールアドレス	sigh@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館 631		
担当教員TEL	095-820-6372		
担当教員オフィスアワー	講義時間終了後、および、sigh@nagasaki-u.ac.jp にて受け付けています。		
授業のねらい	情報およびコンピュータに関する基礎理論や概念を理解した上で応用知識を備えさせるとともに、それらを自在に活用できる能力を身につけさせる。また、ネットワークを利用する際に考慮すべきセキュリティや情報倫理についても理解する。		
授業方法（学習指導法）	授業は、講義と演習を組み合わせる。授業時間内の操作演習や授業時間外の課題を通し講義内容の理解を深める。 eラーニングシステムWebClassを、授業資料や演習課題の提示、課題回収や返却、各種連絡等に活用する。		
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器やネットワークの機能に関わる基本的事項を説明できる。 ・情報機器やネットワークを利用する際の倫理やセキュリティを十分に理解し、ネットワークを活用できる。 ・パソコンで情報を扱うための情報リテラシーが身につく。 ・インターネット（Web）、電子メール、プレゼンテーション、文書作成、表計算を基本的に理解し、操作方法や活用方法を説明できる。 ・情報資源・ネットワーク環境を利用して、情報を収集、分析、活用できる。 		
	原則として以下の内容に沿って授業を進めるが、進捗や理解度の状況に応じて若干の変更を行うことがあります。		
	回	内容	
	1	ガイダンス（授業方法の説明）、学習概要、授業で使用するコンピュータ環境、メール	
	2	情報の検索・活用と情報倫理 情報検索の仕組みと手法、情報の信頼性と信ぴょう性、情報倫理	
	3	情報セキュリティ 情報セキュリティとは、利用者・組織が取るべきセキュリティ対策	
	4	文書作成 (1) Microsoft Wordの操作、文字の書式、段落の書式 (1)、ページの設定	
	5	文書作成 (2) 段落の書式 (2)、オブジェクトの操作、表の作成	

授業内容	6	文書作成 (3) ワープロを用いる利点、作業環境の設定、スタイル
	7	表計算 (1) Microsoft Excelの機能、基本操作、数式、表の書式設定
	8	表計算 (2) セルの参照、関数、書式の設定
	9	表計算 (3) 条件分岐、データの検索、複数シートを使ったデータ処理
	10	表計算 (4) グラフ、表・グラフの印刷、アプリケーションの連携
	11	表計算 (5) データの並べ替え、データの抽出、集計、ピボットテーブル
	12	情報のデジタル化 情報のデジタル化とは、文字・音声・画像のデジタル化
	13	プレゼンテーション プレゼンテーションとは、資料作成上の留意点、PowerPointについて
	14	ネットワークの仕組み コンピュータのネットワーク、インターネットの構成
	15	Webページ作成 HTML、Webページの作成
	16	まとめ、試験
キーワード	情報リテラシー、情報倫理、情報セキュリティ、ネットワーク社会	
教科書・教材・参考書	講義資料を配布します。必要に応じて適宜追加資料や課題などをWebClassにて提示します。	
成績評価の方法・基準等	定期試験 30% コンピュータの動作原理、情報を扱う上で必要となる倫理観等が実際に理解できているかを筆記式の試験で確認します。 演習課題 60% 機器操作を伴う課題への取り組みや完成状況を基に判断します。 授業への参加状況 10% 作業指示に従わない場合や演習妨害等の行為を減点とします。	
受講要件 (履修条件)	特にありません。	
本科目の位置づけ	情報メディア基盤センターの端末を活用出来るようになる。また、専門課程での学習に役立てられるようコンピュータ関連の技術的な基礎、および、原理の概要を習得する。	
学習・教育目標	特にありませんが、コンピュータの操作に慣れていない場合は、毎日少しの時間でもキーボードに触れる時間をとることが望まれます。	
備考 (URL)		
備考 (準備学習等)		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火7
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590001050	科目番号	05900010
授業科目名	●英語コミュニケーションI		
編集担当教員	吉村 宗司		
授業担当教員名(科目責任者)	吉村 宗司		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	吉村 宗司		
科目分類	外国語科目、A科目群 外国語科目、外国語科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[経] 本館MS1		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	soshi@tea.ocn.ne.jp		
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業終了後（授業時の教室）		
授業のねらい	対話や会話といった、コミュニケーションを主要目的とする言葉のやりとりについては、なによりも相手を理解するための聴解力を基盤に持つことが必要である。発話力というのも聴解力あつての発話力であつて、聴解力さえ身につけば、発話力はそれに応じて自然にその進歩が期待できるものである。本講座では、これまで聞くことにあまり時間を割いてこなかった学校教育の弊害を可能な限り克服する意味で、サバイバル英語（米語） - 必要最低限の英語（米語） - を徹底的に学びながら、聴解力と発話力の増強を図ることを第一義的な目的に据えるものである。		
授業方法（学習指導法）	まずは、聴解力の増強に極めて効果的な英音・米音の音声的特徴や法則性（音法）について解説し、聴解力と発話力のバランスをとりながら、英語（米語）の運用能力を習得するトレーニングを行っていく。なお、マテリアルとしては、日常会話表現や旅行英会話、洋楽、時事（ニュース）等、実用性の高いものを取り上げていく予定である。		
授業到達目標	本講座の受講によって、これまで英米語のリスニングに際し、疑問であったことが解消されるはずである。また、受講者のトレーニング次第では、外国人との英会話をはじめ、洋楽、映画、英語ニュースの視聴時に、上達の喜びを体感できるものと思われる。『英語が止まって聞こえる』ようになることを究極の目標に掲げる。		
	授業内容（概要） 前半は、聴解力を増強させるうえで必須となる音声に関する知識の基礎固めを行なう。具体的には、基礎知識、及びリスニングに極めて有効な英音・米音の音声的特徴と法則性（音法）の習得である。中盤から後半は、リスニングとスピーキングのバランスをとりながら、発音矯正と並行して発話力の増強を目指す。限られた時間で実用英米語運用能力を促進させるトレーニングを行っていくとともに、必要に応じて比較文化的視座から文化に関する実利的なトピックも織り交ぜつつ、言語と文化を包括して共時的に学ぶことを視野に入れた解説も展開する。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション（授業方針についての説明、教材の配付、アンケートほか）	
	2	『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか？』 - 分析結果の報告と対策法について	

授業内容	3	プレテスト、つながる音とカタカナ英語、近似カナ表記、母音、半母音/j/, /w/, /r/
	4	/r/と//の発音、子音、調音形式、調音点、有声音と無声音、閉鎖音についての解説
	5	子音の分類表を基にした音素に関する基礎知識の確認、単語レベルの発音クリニック
	6	『音の連結』を聞き取るパターン（リエゾンの原則）、/t/, /d/, /g/の脱落、/t/, /d/のラ行音化
	7	連結しない場合の//, /h/の脱落、半母音/j/, /n/+t/と/n+/d/による音変化
	8	『閉鎖音の連続による脱落』、『同じ子音の連続による脱落』を聞き取るパターン
	9	『同化』を聞き取るパターン(1) (半母音/j/に絡む音変化①)
	10	『同化』を聞き取るパターン(2) (半母音/j/に絡む音変化②)、『調音点が近い子音の連続』を聞き取るパターン
	11	『同化』を聞き取るパターン(3) (/n/の後続音への影響)
	12	On an Airplane(1)
	13	On an Airplane(2)、VTR視聴
	14	At an Airport(1)、洋楽を聞き取る
	15	At an Airport(2)、洋楽を聞き取る、まとめ
	16	定期試験 ※毎回、詳細に解説を施す予定であるため、上記の進度設定を変更する場合もある。なお、基本的な音法を習得した後に旅行英会話等への応用を試みるが、解説やトレーニングに加え、比較文化的視座から実利的なトピックも交えつつ講義を進めていく。
	キーワード	音法
	教科書・教材・参考書	(1) 英語リスニング - 聞き取るための入門講座 (ハンドアウト教材) (2) American (ハンドアウト教材) (3) アメリカの生活と文化 (VTR教材)
成績評価の方法・基準等	定期試験80%、受講態度、及び授業中の発表20%	
受講要件 (履修条件)	配布された教材に対する予習復習は必須である。特に、毎時学んだ内容に関し、毎日のトレーニングを継続させることによって、実用英米語運用能力の促進が可能となる。したがって、復習に力点を置いた学習姿勢が望まれる。	
本科目の位置づけ	本科目は、英語の四技能習得のうち、実用英語運用能力、即ちリスニングとスピーキングの能力を促進させることに力点を置いた位置づけである。	
学習・教育目標	英語国民と円滑なコミュニケーションを図ることができるレベルのリスニング力とスピーキング力を習得することが目標である。また、並行してTOEICテストや各種英語検定試験などのリスニング部門で高得点をあげることも目標に掲げたい。	
備考 (URL)		
備考 (準備学習等)	辞書、あるいは電子辞書を準備する。授業時間内での学習のみで能力を促進させるには限界があるため、例えばNHK教育テレビやラジオの語学番組等を視聴、聴取するなど、とにかく毎日英語に接する時間を捻出することが望ましい。英語に親しむことを習慣にできれば上達は必ず期待できる。限られた時間ですが、一緒にがんばりましょう!!	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火7
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590001051	科目番号	05900010
授業科目名	●英語コミュニケーションI		
編集担当教員	吉村 宗司		
授業担当教員名(科目責任者)	吉村 宗司		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	吉村 宗司		
科目分類	外国語科目、A科目群 外国語科目、外国語科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[経] 本館MS1		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	soshi@tea.ocn.ne.jp		
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業終了後（授業時の教室）		
授業のねらい	対話や会話といった、コミュニケーションを主要目的とする言葉のやりとりについては、なによりも相手を理解するための聴解力を基盤に持つことが必要である。発話力というのも聴解力あつての発話力であつて、聴解力さえ身につけば、発話力はそれに応じて自然にその進歩が期待できるものである。本講座では、これまで聞くことにあまり時間を割いてこなかった学校教育の弊害を可能な限り克服する意味で、サバイバル英語（米語） - 必要最低限の英語（米語） - を徹底的に学びながら、聴解力と発話力の増強を図ることを第一義的な目的に据えるものである。		
授業方法（学習指導法）	まずは、聴解力の増強に極めて効果的な英音・米音の音声的特徴や法則性（音法）について解説し、聴解力と発話力のバランスをとりながら、英語（米語）の運用能力を習得するトレーニングを行っていく。なお、マテリアルとしては、日常会話表現や旅行英会話、洋楽、時事（ニュース）等、実用性の高いものを取り上げていく予定である。		
授業到達目標	本講座の受講によって、これまで英米語のリスニングに際し、疑問であったことが解消されるはずである。また、受講者のトレーニング次第では、外国人との英会話をはじめ、洋楽、映画、英語ニュースの視聴時に、上達の喜びを体感できるものと思われる。『英語が止まって聞こえる』ようになることを究極の目標に掲げる。		
	授業内容（概要） 前半は、聴解力を増強させるうえで必須となる音声に関する知識の基礎固めを行なう。具体的には、基礎知識、及びリスニングに極めて有効な英音・米音の音声的特徴と法則性（音法）の習得である。中盤から後半は、リスニングとスピーキングのバランスをとりながら、発音矯正と並行して発話力の増強を目指す。限られた時間で実用英米語運用能力を促進させるトレーニングを行っていくとともに、必要に応じて比較文化的視座から文化に関する実利的なトピックも織り交ぜつつ、言語と文化を包括して共時的に学ぶことを視野に入れた解説も展開する。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション（授業方針についての説明、教材の配付、アンケートほか）	
	2	『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか？』 - 分析結果の報告と対策法について	

授業内容	3	プレテスト、つながる音とカタカナ英語、近似カナ表記、母音、半母音/j/, /w/, /r/
	4	/r/と//の発音、子音、調音形式、調音点、有声音と無声音、閉鎖音についての解説
	5	子音の分類表を基にした音素に関する基礎知識の確認、単語レベルの発音クリニック
	6	『音の連結』を聞き取るパターン（リエゾンの原則）、/t/, /d/, /g/の脱落、/t/, /d/のラ行音化
	7	連結しない場合の//, /h/の脱落、半母音/j/, /n/+t/と/n+/d/による音変化
	8	『閉鎖音の連続による脱落』、『同じ子音の連続による脱落』を聞き取るパターン
	9	『同化』を聞き取るパターン(1)（半母音/j/に絡む音変化①）
	10	『同化』を聞き取るパターン(2)（半母音/j/に絡む音変化②）、『調音点が近い子音の連続』を聞き取るパターン
	11	『同化』を聞き取るパターン(3)（/n/の後続音への影響）
	12	On an Airplane(1)
	13	On an Airplane(2)、VTR視聴
	14	At an Airport(1)、洋楽を聞き取る
	15	At an Airport(2)、洋楽を聞き取る、まとめ
	16	定期試験 ※毎回、詳細に解説を施す予定であるため、上記の進度設定を変更する場合もある。なお、基本的な音法を習得した後に旅行英会話等への応用を試みるが、解説やトレーニングに加え、比較文化的視座から実利的なトピックも交えつつ講義を進めていく。
	キーワード	音法
	教科書・教材・参考書	(1) 英語リスニング - 聞き取るための入門講座（ハンドアウト教材） (2) American（ハンドアウト教材） (3) アメリカの生活と文化（VTR教材）
成績評価の方法・基準等	定期試験80%、受講態度、及び授業中の発表20%	
受講要件（履修条件）	配布された教材に対する予習復習は必須である。特に、毎時学んだ内容に関し、毎日のトレーニングを継続させることによって、実用英米語運用能力の促進が可能となる。したがって、復習に力点を置いた学習姿勢が望まれる。	
本科目の位置づけ	本科目は、英語の四技能習得のうち、実用英語運用能力、即ちリスニングとスピーキングの能力を促進させることに力点を置いた位置づけである。	
学習・教育目標	英語国民と円滑なコミュニケーションを図ることができるレベルのリスニング力とスピーキング力を習得することが目標である。また、並行してTOEICテストや各種英語検定試験などのリスニング部門で高得点をあげることも目標に掲げたい。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）	辞書、あるいは電子辞書を準備する。授業時間内での学習のみで能力を促進させるには限界があるため、例えばNHK教育テレビやラジオの語学番組等を視聴、聴取するなど、とにかく毎日英語に接する時間を捻出することが望ましい。英語に親しむことを習慣にできれば上達は必ず期待できる。限られた時間ですが、一緒にがんばりましょう!!	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火7
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590003050	科目番号	05900030
授業科目名	●英語コミュニケーションII		
編集担当教員	丸山 真純		
授業担当教員名(科目責任者)	丸山 真純		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	丸山 真純		
科目分類	外国語科目、A科目群 外国語科目、外国語科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[経] CALL教室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	masazumi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所312		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	木 12:00-14:30		
授業のねらい	<p>毎回1つの語について、よく用いられる使い方を学ぶ(具体的な語については以下を参照)。コミュニケーションのクラスなので、簡単なスキットを見ながら、表現を学んでいく。また、表現力を増強するために、そうした表現を用いた別の表現なども学んでいく。取り上げる表現は基本的な動詞であり、その他の語彙についても基本的なものが中心となる。語を単独に学ぶのではなく、コロケーション(語と語の結びつき)で学んでいきたい。例えば、comeという動詞は、多くの場合、come toの形で用いられる (come とtoが結びつきやすい)。それぞれをばらばらで学ぶのではなく、まとめ、そして、会話の文脈の中で学んでいく。</p>		
授業方法（学習指導法）	CALL教室にて、担当教員による解説のほか、Pair-Work Group-Workなど、コミュニケーション活動を重視する		
授業到達目標	基本的な動詞に関する文法とそのための語彙の理解。		
	教科書に基づき、以下の事柄を学習し、実際に運用できるようにする。具体的な内容は以下の通り。		
	回	内容	
	1	Introduction	
	2	be(1)	
	3	have(1)	
	4	do(1)	
	5	get (1)	
	6	Quiz 1	
		go(1)	

授業内容	7	say(1)
	8	know(1)
	9	think(1)
	10	Quiz 2
		be(2)
	11	see(1)
	12	come (1)
	13	mean (1)
	14	have(2)
	15	Catch-up & Review
16	Quiz 3	
キーワード		
教科書・教材・参考書	資料を配布する	
成績評価の方法・基準等	<p>毎回、授業の最後に、授業で学んだ表現についての簡単な確認を行う。全体で40点に相当する。これは、授業外での学習を促す目的のものである。</p> <p>また、小テストを3回行う(最後の小テストはテスト期間になる予定)。1回20点×3回=60点である。</p> <p>授業での皆さんの反応を見ながら、これ以外の課題を課す場合もある。その際は、上記の代替になるか、あるいは、ボーナス・ポイントとする。</p>	
受講要件 (履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標	基本的な事柄を英語で表現できること/しようとすることを目標とする	
備考 (URL)		
備考 (準備学習等)	科目の性格上、全授業の1/3以上の欠席者には、単位が与えられない。辞書は必ず毎回持参すること。	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火7
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590003051	科目番号	05900030
授業科目名	●英語コミュニケーションII		
編集担当教員	白水 桂子		
授業担当教員名(科目責任者)	白水 桂子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	白水 桂子		
科目分類	外国語科目、外国語科目、A科目群 外国語科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[経] CALL教室		
対象学生（クラス等）	夜間主コース		
担当教員Eメールアドレス	kuwata@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所2階		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業終了時、またはメールで受け付けます。		
授業のねらい	高校までに学習した文法事項の復習をして、英語の基礎力の強化を目指します。		
授業方法（学習指導法）	練習問題で2つの文法事項の復習を行うと共にlisteningやペアでのspeakingの練習もします。		
授業到達目標	重要文法事項を身につけて、今後の英語の運用能力向上に役立つようにする。		
授業内容	毎回、文法事項の復習に加えてlistenigやspeakingの練習もします。それぞれのUnitのReview Quizや復習テストも予定しています。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション	
	2	Unit 1 be動詞の現在形と過去形 Unit 2 命令文	
	3	Unit 3 現在形と現在進行形 Unit 4 代名詞	
	4	Unit 5 過去形と過去進行形 Unit 6 過去形と現在完了	
	5	Unit 7 時を表す前置詞 Unit 8 数えられる名詞と数えられない名詞	
	6	Unit 9 be going to と will Unit 10 助動詞	
	7	Unit 11 等位接続詞と2語で成り立つ接続詞 Unit 12 Yes-No 疑問文	
	8	復習テスト（予定）	

	9	Unit 13 場所と移動を表す前置詞 Unit 14 Wh-疑問文
	10	Unit 15 a,an,the/oneとones Unit 16 他動詞と自動詞
	11	Unit 17 能動態と受動態 Unit 18 形容詞
	12	Unit 19 動名詞と不定詞 Unit 20 形容詞の比較級と最上級
	13	Unit 21 副詞 Unit 22 従位接続詞
	14	Unit 23 関係詞
	15	Unit 24 So do I.やNeither do I.などの表現
	16	授業の総括（試験を含む）
キーワード		
教科書・教材・参考書		Robert Hickling & Satsuki Osaki（著） English Upload（金星堂）
成績評価の方法・基準等		授業への参加状況（Review Quizや課題等も含む）50% 期末試験、復習テスト50% 以上により総合的に評価します。
受講要件（履修条件）		ある一定の回数以上欠席すると、期末試験の受験資格がなくなります。30分以上の欠席、授業終了前の早退は欠席と見なします。特別な事情がある場合は個別に相談して下さい。
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木6
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005050	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ		
編集担当教員	丸山 真純		
授業担当教員名(科目責任者)	丸山 真純		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	丸山 真純		
科目分類	外国語科目、外国語科目、A科目群 外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[経] 新館101講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	masazumi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所312		
担当教員TEL	820-6376		
担当教員オフィスアワー	火曜日13:00-14:30, 17:40-19:10, or appointment		
授業のねらい	英語と日本語の比較を通して、それぞれの言語の特徴を理解するとともに、人間にとって言語とは何か、言語の働きなどについての理解を深める。		
授業方法（学習指導法）	受講生の発表とそれに基づく議論をもとに展開する。発表者以外の受講生はWebClassにて、発表章についての課題および発表後のコメント等を提出する。		
授業到達目標	英語、日本語の特徴を比較を通じて、それぞれの言語の特徴とその背後にある世界観を理解すること。		
授業内容	回	内容	
	1	授業概要説明	
	2	『ことばと文化』第2章「ことばの構造、文化の構造」	
	3	『ことばと文化』第2章「ものとことば」	
	4	『ことばと文化』第3章「かくれた基準」	
	5	『ことばと文化』第4章「ことばの意味、ことばの定義」	
	6	『ことばと文化』第5章「事実に意味を与える価値について」	
	7	『ことばと文化』第6章「人を表すことば」その1	
	8	『ことばと文化』第6章「人を表すことば」その2	
	9	中間試験	
	10	『日本語と外国語』第1章「ことばで世界をどう捉えるか」	
	11	『日本語と外国語』第2章「虹は七色か」	
	12	『日本語と外国語』第3章「日本人はイギリスを理解しているか」	

	13 『日本語と外国語』第4章「漢字の知られざる働き(1)音読みと訓読みの関係」
	14 『日本語と外国語』第5章「漢字の知られざる働き(2)視覚的弁別要素の必要性」
	15 Catch-up & Review
	16 期末試験
キーワード	ことばと世界観 ことばと認識 人称詞と対称詞
教科書・教材・参考書	鈴木孝夫『ことばと文化』および『日本語と外国語』
成績評価の方法・基準等	発表15% 授業内での貢献15% WebClassへの課題提出25% 中間試験25% 期末試験30%
受講要件（履修条件）	
本科目の位置づけ	英語コミュニケーションⅠ・Ⅱで学習した内容に基づき、英語および言語一般の働きをさらに学習する。
学習・教育目標	比較を通じて、英語および母語である日本語についての理解を深めるとともに、言語の持つ働きについての理解を深める。
備考（URL）	
備考（準備学習等）	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木6
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005051	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ		
編集担当教員	白水 桂子		
授業担当教員名(科目責任者)	白水 桂子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	白水 桂子		
科目分類	外国語科目、A科目群 外国語科目、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[経] CALL 教室		
対象学生（クラス等）	夜間主コース		
担当教員Eメールアドレス	kuwata@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所2階		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業直後、またはメールで受け付けます。		
授業のねらい	基礎的な語彙や文法の確認に重点を置き、対話の音読や英文の筆写で記憶を定着させる事を目標にします。		
授業方法（学習指導法）	予習してきた内容の確認をした後、文法事項の練習問題をします。また、ListeningやペアでのSpeakingの練習、対話の筆写も行います。		
授業到達目標	基礎的文法事項を身に付けた上で、やさしい英文の読み書きが出来るようになる。		
	WARM-UPは授業の予習として済ませてきてください。授業では、WARM-UPで取り上げた文法事項の確認問題、対話の空所補充や音読の練習をします。復習テストや対話の筆写等も予定しています。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション 01 Pleased to meet you. be動詞	
	2	02 Do you remember me? 一般動詞（現在）	
	3	03 I spoke to Ms. Hayashi yesterday. 一般動詞（過去）	
	4	04 When does the meeting start? 疑問詞	
	5	05 Can you meet me at the airport? 助動詞 1	
	6	06 Feel free to ask me anytime. 文の種類、命令文	

授業内容	7	07 I'm thinking about quitting my job. 進行形
	8	復習テスト（予定） 08 I'll give her yor message. 未来形
	9	09 I haven't received the latest figures. 現在完了形
	10	10 The cafeteria is closed today. 受動態
	11	11 We expect higher sales in China. 比較
	12	12 I'd like to check in. 助動詞 2
	13	13 How about going to the theater? 動名詞
	14	14 I like to travel a lot. to不定詞
	15	15 What are your plans for the future? 接続詞
	16	授業の総括（試験を含む）
キーワード		
教科書・教材・参考書	角山照彦・Simon Capper（著）Let's Read Aloud & Learn English!（音読で始める基礎英語） 成美堂	
成績評価の方法・基準等	授業への積極的参加状況（課題なども含む）50% 復習テスト・期末試験50% 以上により総合的に評価します。	
受講要件（履修条件）	ある一定の回数以上欠席した場合は、期末試験の受験資格がなくなります。30分以上の遅刻 や授業終了前の早退は欠席と見なします。特別な事情がある場合は個別に相談してください。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水7
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590009050	科目番号	05900090
授業科目名	●総合英語Ⅰ		
編集担当教員	前川 智子		
授業担当教員名(科目責任者)	前川 智子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	前川 智子		
科目分類	外国語科目、外国語科目、B科目群 外国語科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[経] 新館101講義室		
対象学生（クラス等）	夜間主コース		
担当教員Eメールアドレス	t-mae@asca-iso.jp		
担当教員研究室	非常勤講師控え室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業開始前10分間		
授業のねらい	英語の構成法を学ぶこと、語彙を増やすこと、英語らしい読み方が出来ることがねらいである。 この三点をマスターさせることにより、今後の英語学習につなげたい。		
授業方法（学習指導法）	教科書の、語句と英文構成に関する練習問題（特に、1と2）を中心に学習し、英語構成をマスターし、派生語を中心に語彙力を向上させる。各章の最初の段落をoverlapping, shadowingをしながら、英語らしい読み方を習得する。また、空所補充形式のリスニング問題を行い、リスニング力と共に語彙力を確認する。		
授業到達目標	英語構成を確実に身につける。派生語を理解し、語彙を増やす。 英語らしい発音・イントネーションで英文を読むことができる。		
授業内容	第1回 教科書販売 / 授業の進め方、教科書の使い方、 Ch.1 September 11 (英文構成) 第2回 Ch.1: September 11 (語彙・音読・リスニング) 第3回 Ch.2: Beyond "September 11" (語彙、英文構成、音読、リスニング) 第4回 Ch.3: The Stone Walk / 第5回 Ch.4: Students' Power in the Stone Walk 第6回 Ch. 5:Japan and My Family (語彙、音読、リスニング) 第7回 Review 第8回 中間テスト(Ch.1~ 5) / Ch.6 (語彙) 第9回 中間テストの復習、 Ch.6: The Japan that I love (音読、リスニング) 第10回 Ch.7:Paper Sculpture (語彙、音読、リスニング) 第11回 Ch.8:The tour of the exhibition (語彙、音読、リスニング) 第12回 Ch.9:The Art of Memory (語彙、音読、リスニング) 第13回 Ch.10:Statues for Peace (語彙、音読、リスニング) 第14回 Ch.12: Japanese Young Volunteers in America (語彙、音読、リスニング) 第15回 授業のまとめと復習 第16回 期末テスト (中間テスト以降の範囲)		

キーワード	語彙力、英文構成法、音読
教科書・教材・参考書	「Peace Talk」(開文社出版、前川智子編著、Andrea LeBlanc 外著)
成績評価の方法・基準等	期末テスト(60%) 中間テスト(20%) 毎週の課題・授業中の活動(20%)提出課題は期限厳守のこと
受講要件(履修条件)	欠席が5回となると期末試験を受ける資格を失う。30分以上の遅刻・早退は原則として欠席扱いとする。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	英語構成法、語彙力、英語らしい発音・イントネーションが向上する。
備考(URL)	
備考(準備学習等)	毎回宿題(教科書の練習問題)を出すので、それを行った上で授業に臨むこと。 上記宿題は教科書のコピーを授業の初めに提出してもらうので、授業前に準備しておくこと。 教科書のお下がり不可。同じ教科書で受講した再履修者に限っては本人の教科書であれば再使用も可能だが、新教科書で新たに学習することを奨励する。



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	水7
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590011050	科目番号	05900110
授業科目名	●総合英語Ⅱ		
編集担当教員	山崎 有介		
授業担当教員名(科目責任者)	山崎 有介		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山崎 有介		
科目分類	外国語科目、外国語科目、B科目群 外国語科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[経] 新館101講義室		
対象学生（クラス等）	夜間主		
担当教員Eメールアドレス	pro-1223@i-next.ne.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業終了後		
授業のねらい	日常生活上の出来事や文学作品上のフィクションを通じて、様々な英語の表現を培ってほしい。 エッセイの内容把握力・語彙力・文法力・作文力を育みたい。		
授業方法（学習指導法）	語彙の確認、リスニングによる音声把握、音読による発音練習、英文の読解力と表現力を養う。		
授業到達目標	無理なく通常の英文が読め、聴覚力を養うことで発音の向上を目指し、英語による表現力を豊かにしたい。 TOEICや英検などの資格試験のスキルアップにも役立てたい。		
授業内容	毎回一つずつChapterを進む。Reading → Vocabulary → Comprehension → Grammar → Writing → Quiz → Quote の流れで行う。		
	回	内容	
	1	Orientation & Introduction	
	2	Chapter 1: Harry Potter and Chocolate Frogs Grammar: It の用法	
	3	Chapter 2: Peter Rabbit and Pie Grammar: 品詞	
	4	Chapter 3: Mrs. Rabbit and Herb Tea Grammar: 分詞構文	
	5	Chapter 4: Winnie-the-Pooh and Honey Grammar: 使役動詞	
	6	Chapter 5: Daddy-Long-Legs and Ice Cream Grammar: 接続詞	
	7	Chapter 6: Kenji Miyazawa and Tomatoes Grammar: 否定	
	8	前半のまとめ（筆記試験を含む）	
	9	Chapter 7: O. Henry and "Witches' Loves" Grammar: 比較	
10	Chapter 8: The Old Man and Fish Grammar: 完了形		

	11	Chapter 9: East of Eden and Lettus Grammar: 動名詞
	12	Chapter 10: Laura and Cheese-Making on the Prairie Grammar: 仮定法
	13	Chapter 11: Breakfast and Tiffany's Grammar: 関係詞
	14	Chapter 12: "Mujina" and "Soba" Grammar: 不定詞
	15	chapter 13: Bridget Jones and Dieting Grammar: 助動詞
	16	後半のまとめ(定期試験を含む)
キーワード	Listening/Speaking/Reading/Writing/Vocabulary	
教科書・教材・参考書	A Taste of English: Food and Fiction (Asahi Press)	
成績評価の方法・基準等	中間試験30%、定期試験30%、小テスト20%、授業への姿勢20%	
受講要件 (履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考 (URL)		
備考 (準備学習等)		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木7
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590013050	科目番号	05900130
授業科目名	●総合英語Ⅲ		
編集担当教員	山崎 有介		
授業担当教員名(科目責任者)	山崎 有介		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山崎 有介		
科目分類	外国語科目、外国語科目、B科目群 外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[経] 新館101講義室		
対象学生（クラス等）	夜間主		
担当教員Eメールアドレス	pro-1223@i-next.ne.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業終了後		
授業のねらい	英字新聞各社（The New York Times, International Herald Tribune, The Washington Post, The Associated Press, The Japan Times, Reuters, Kyodo News, AFP-JIJI）の記事を読み、英文を通じて現代社会の様々な問題に触れることで、4技能（Reading, Listening, Speaking, Writing）にわたる現代英語の運用能力を身につけてほしい。		
授業方法（学習指導法）	語彙の確認、リスニングによる音声把握、音読による発音練習、英文の読解力と表現力を養う。		
授業到達目標	無理なく通常の英文が読め、聴覚力を養うことで発音の向上を目指し、英語による表現力を豊かにしたい。 TOEICや英検などの資格試験のスキルアップにも役立てたい。		
授業内容	毎回1つずつUnitを進む。Before you read → Words and Phrases → Summary → Reading → Multiple Choice → True or False → Vocabulary の流れで進む。		
	回	内容	
	1	Orientation & Introduction	
	2	Unit 1: Nothing is private when it's all on Facebook	
	3	Unit 2: AKB all-girl pop group craze spurs clone spinoffs, wannabes Asia-wide With a Prison Tongue, Putting a Smile on a Nation's Aging Faces	
	4	Unit 3: New holes in European safty nets	
	5	Unit 4: Economic shoe on the other foot	
	6	Unit 5: Pakistani puzzle: Hindu daughter to Muslim bride	
	7	Unit 6: Latvian Voters Rejects Russian as a Second Language	
8	中間のまとめ（筆記試験を含む）		

	9	Unit 7: Olympics in London
	10	Unit 8: As Myanmar Changes, So Does Its Leader
	11	Unit 9: In China, introspection over lack of compassion
	12	Unit 10: Less acclaim, more fun for Japan's Ig Nobel Prize winners
	13	Unit 11: How to deal with 7 billion people? India's baby boom—dividend or disaster?
	14	Unit 12: 'King of kings' Gadhafi met his end in the gutter
	15	後半のまとめ
	16	定期試験
キーワード	Listening/Speaking/Reading/Writing/Vocabulary	
教科書・教材・参考書	The Half-Edition of English through the News Media (Asahi Press)	
成績評価の方法・基準等	中間試験30%、定期試験30%、小テスト20%、授業への姿勢20%	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587026999	科目番号	05870269
授業科目名	●安全で安心できる社会Ⅱ(医療現場の安全と安心)		
編集担当教員	林田 秀明		
授業担当教員名(科目責任者)	林田 秀明		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	林田 秀明, 松本 武浩, 濱野 真二郎, 安田 二郎		
科目分類	全学モジュールⅡ科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 新館101講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	hide@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	口腔保健学		
担当教員TEL	095-819-7663		
担当教員オフィスアワー	月曜日16:30～		
授業のねらい	国内・外での病原性感染症発祥の歴史や国際伝播、情報共有について理解を深め、認識するとともに、国際人として国際社会で活躍するために、自ら医療の安全、安心の意識を育てる。		
授業方法（学習指導法）	基本的に講義形式とする。 内容により参加型の討論形式などを行う。		
授業到達目標	①国内・外で注目されている感染症および生体防御の基礎について理解する。 ②医療現場における安全と安心について理解する。 ③歯科医療における安全と安心について理解する。		
授業内容	回	内容	
	1	新興感染症出現の背景と致死性の高いウイルス性出血熱に関する基礎知識 安田二郎（熱研）(4/8)	
	2	テレビや映画の中の感染症：正しく伝えられているか？ 安田二郎（熱研）(4/15)	
	3	病気を起こす原虫とは？ 金子修（熱研）(4/22)	
	4	世界的に重大な感染症マラリアに関する基礎知識 金子修（熱研）(5/13)	
	5	ネグレクテッド・トロピカル・ディーズ（顧みられない熱帯病）：「死なないからと放っておかれてはたまらない」1 濱野真二郎（熱研）(5/20)	
	6	ネグレクテッド・トロピカル・ディーズ（顧みられない熱帯病）：「死なないからと放っておかれてはたまらない」2 濱野真二郎（熱研）(5/27)	
	7	細菌の感染の仕組み 平山壽哉（熱研）(6/3)	
	8	地球規模のピロリ菌感染 平山壽哉（熱研）(6/10)	

	9	「防御は最大の攻撃？—ヒトの免疫の話」どうやってヒトはバイキンを追い払ったり負けたりするのか？ 平山謙二（熱研）（6/17）
	10	「防御は最大の攻撃？—ヒトの免疫の話」どうやってヒトはバイキンを追い払ったり負けたりするのか？ 平山謙二（熱研）（6/24）
	11	医療機関における安全管理 松本武浩（病院）（7/1）
	12	医療連携における安全・安心 川崎浩二（病院）（7/8）
	13	診療録管理を通じた安全・安心の医療の提供 廣瀬弥幸（病院）（7/22）
	14	歯科における標準予防策 林田秀明（歯学部）（7/23）
	15	歯科治療における偶発症とその防止策 林田秀明（歯学部）（7/29）
	16	
キーワード	医療現場・感染症・国際伝播・情報共有	
教科書・教材・参考書	プリントの配布とスライドによる講義なので教科書・教材・参考書等特にありません	
成績評価の方法・基準等	講義中の小テストおよびレポート（50点）、講義終了後のレポート（50点）計100点満点で60点以上の者を合格とする。	
受講要件（履修条件）	特になし	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587027399	科目番号	05870273
授業科目名	●安全で安心できる社会Ⅱ(社会科学からみた安全・安心)		
編集担当教員	松本 睦樹		
授業担当教員名(科目責任者)	松本 睦樹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	松本 睦樹		
科目分類	全学モジュールⅡ科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館11講義室		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	mutuki@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館5階511		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	講義終了後の時間帯		
授業のねらい	歴史上よく知られる現象や出来事のうち幾つかを取り上げ、「安全・安心」という視点から考察する。		
授業方法(学習指導法)	プロジェクターを活用した口述の講義を60分間行い、次にその内容を30分間でレポートにまとめてもらう。本講義のあり方は、他の講義とかなり性格を異にし、受講者には毎回のレポート作成に時間とエネルギーを割いてもらうことになる。これは、1つには講義を真剣に聴き、かつ理解するために、2つには理解した内容をまとめる訓練のために必要なものである。また、講義時間中に小テスト(ノート持ち込み可)を実施する。		
授業到達目標	人間の歴史がある意味で「安全と安心」を求めるそれであったことを理解する。		
授業内容	社会経済の発展は、一方で個々人の日常生活や国家間のレベルにおいて多様な問題を生み出し、同時にそれを解決してきた。本講義では、1つは「安全・安心」を求める個人が社会集団化した現象を、いま1つは国家間の紛争を解決する国際機関が発足した経緯をテーマに、主として経済史的視角から歴史現象を学ぶ。		
	回	内容	
	1	講義の方法とルール、評価方法などについての説明	
	2	社会集団化(多民族国家としてのインド)	
	3	同(社会集団化とカースト)	
	4	同(カーストの概要)	
	5	同(カーストの事例)	
	6	同(カーストの流動化)	
	7	同(カースト間の紛争とその解決)	
	8	同(経済発展とカースト)	

	9	国際協調（国際紛争の顛末）
	10	同（国際協調の試み）
	11	同（国際協調の挫折）
	12	同（国ごとの対応とその限界）
	13	同（世界経済の破綻）
	14	同（第2次大戦の教訓）
	15	同（国際機関の成立）
	16	
キーワード		
教科書・教材・参考書	使用しない	
成績評価の方法・基準等	小テストの成績を100点満点で計算し、それに毎回のレポートの成績や講義への参加状況などを加味する（定期試験は行わない）。なお、出席すべき講義回数の3分の2以上を出席することが、単位認定の必要条件である。	
受講要件（履修条件）	世界史の知識を有することが望ましい。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標	人類の歴史がある意味で「安全・安心」を求めるそれであったことを理解する。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）	(1) 第1回の講義では本講義についてのルールや評定計算の詳細など重要な点を説明するので、注意すること。 (2) 本講義では15分を超えての遅刻は認めない。	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587028999	科目番号	05870289
授業科目名	●安全で安心できる社会Ⅱ(破壊事故とヒューマンファクタ)		
編集担当教員	勝田 順一		
授業担当教員名(科目責任者)	勝田 順一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	勝田 順一		
科目分類	全学モジュールⅡ科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 新館101講義室		
対象学生(クラス等)	夜間 安全で安心できる社会		
担当教員Eメールアドレス	katsuta@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	文教町キャンパス 工学部1号館5階 教官・ゼミ室504		
担当教員TEL	095-819-2599		
担当教員オフィスアワー	基本的には講義終了後講義室, またはmailで受け付ける。研究室に在室中は随時受け付ける。		
授業のねらい	<p>“ものづくり”は、建造するものが壊れないように、要求される性能を十分に発揮できるようにする必要がある。ところが、実際には、様々な“もの”が様々な原因で壊れ、時には悲惨な事故となることがある。</p> <p>講義では、様々な学部にも所属し、将来いろいろな分野に進む学生を対象に、“ものづくり”の成果や破壊事故の実情を講義とビデオにより紹介する。また、“もの”が壊れる条件についてわかりやすく説明する。</p> <p>さらに、近年、事故発生に人のミスが関わっているとの多くの指摘がある。ヒューマン・エラーについて体験させ、人のミスを防ぐための安全確保策の考え方について紹介することを目的とする。</p>		
授業方法(学習指導法)	<p>講義は、パワーポイントによる座学での解説とビデオでの事例の視聴によって行う。自主学習としてレポートを課す。また、後半のヒューマン・ファクタの項目では、学生自身による体験を行う。</p> <p>講義中の受講態度や遅刻については、特に成績評価に反映させるので、真摯な態度での受講を求める。</p>		
授業到達目標	この講義によって、実際の「ものづくり」に携わらなくても、新聞等での事故報道に対する理解が深まること、学生の身近な生活の中で利用可能なヒューマン・エラー対策の基礎的考察ができることを到達目標とする。		
	<p>“ものづくり”の手順、“もの”が壊れる原因について講義した上で、破壊事故の事例をビデオで視聴する。</p> <p>事例によっては、講義室で簡単な実験で事故原因を体験する。</p> <p>事故には、個人の知識不足や不注意だけでなく、ヒューマン・ファクタや組織の原因が大きく影響することを理解するために、簡単なヒューマン・エラーを起こす体験を行う。</p> <p>これらのことによって、誰でもが、一生懸命やっても、優秀であっても、陥る可能性があるミ</p>		

授業内容	<p>スについて,実態と対策を考える。</p> <p>第 1 回 講義の概論, 講義の目的,"ものづくり"の成果 第 2 回 "ものづくり"の成果と破壊事故分析 第 3 回 力に対する材料の限界, 破壊とは 第 4 回 最近の事故例における発生の背景 第 5 回 事故例と事故分析 第 6 回 工学的安全システムの有効・無効 第 7 回 "ものづくり"における『安全』とは 第 8 回 "ものづくり"における安心と市民の『安心』とは 第 9 回 技術者の責任と市民の責任 第 10 回 人が犯すミスとその背景, および体験 第 11 回 想定される失敗と想定されない失敗, および体験 第 12 回 思い込みと錯覚による安全喪失 第 13 回 外部情報と脳の受容情報 第 14 回 人の理解と脳の理解, その行動 第 15 回 安心文化の醸成のためには</p>
キーワード	破壊事故, 医療事故, 組織事故, 安心・安全, ヒューマン・ファクタ, 脳科学, 認知科学
教科書・教材・参考書	教科書は用いず, 教員作成の講義資料(プロジェクト), ビデオ, 配布資料, 実験資料によって行う。 必要に応じて, 参考文献を講義中に紹介する。
成績評価の方法・基準等	提示されたテーマに対する自身で考えたことを主とするレポートのみによって100%評価する。定期試験は実施しない。未提出の課題やレポートがある場合は, 不合格とする。課題レポートでは, 自分自身の多面的な考察, 意見, 感想のみを評価し, 講義内容を記した部分は評価対象外とする。レポートでの得点で合格に達した者については, 受講態度や自主学習を考慮して, 成績を報告する。
受講要件(履修条件)	欠席は認めず, 全回出席を原則とする。やむを得ない理由がある場合のみ, 個別指導を行う。なお, 高等学校までの物理学の受講の有無は問わない。
本科目の位置づけ	一般教養科目として, 自然科学分野の知識を身に付け, 様々な状況や立場での自身の行動を創造的に考える能力を養成するための科目である。
学習・教育目標	一般教養科目として, 自然科学分野の知識を身に付け, 様々な状況や立場での自身の行動を創造的に考える能力を養成する。
備考(URL)	
備考(準備学習等)	準備は必要ないが, 講義後のレポート作成に重点をおくことを求める。



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 7
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587029399	科目番号	05870293
授業科目名	●安全で安心できる社会Ⅱ(水環境の安全と安心)		
編集担当教員	田邊 秀二		
授業担当教員名(科目責任者)	田邊 秀二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	田邊 秀二, 夢田 彰秀		
科目分類	全学モジュールⅡ科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 新館101講義室		
対象学生(クラス等)	経済(夜間主)		
担当教員Eメールアドレス	s-tanabe@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	工学研究科(総合教育研究棟7F709)		
担当教員TEL	095-819-2659		
担当教員オフィスアワー	12:00~12:50(事前にメールで連絡すること)		
授業のねらい	日本は地球の温帯地域にあり、四季を通じて降雨があるため水には恵まれてきた。しかし、途上国においては、安全な飲料水の確保は喫緊の問題であり、日本に限らず、先進国の水処理技術の導入が急がれている。この講義では、工学研究科の水環境技術者育成に関わる教員により、水環境に関する技術の現状、問題点を整理し、日本の持つ先進的なモニタリング技術、アセスメント、膜や生物処理を使った最先端水処理技術などを理解することで、普段気づかない水環境の安全・安心について考える。		
授業方法(学習指導法)	講義を基本とする。必要に応じてアクティブラーニング手法を取り入れる。		
授業到達目標	水環境に関する問題について解説できる。水環境のモニタリング技術、廃棄物問題、水処理技術について説明できる。		
授業内容	回	内容	
	1	オリエンテーション：有明海や水俣湾における水環境の現状	
	2	水環境モニタリング技術について	
	3	水道と水源池	
	4	水源を守る	
	5	日本国内外の廃棄物処理の現状から起こる、水問題について(1)	
	6	日本国内外の廃棄物処理の現状から起こる、水問題について(2)	
	7	化学薬品、重金属などの危険物質の現状と対策について	
	8	世界の水環境問題と膜分離技術の貢献について	
	9	＜水を造る＞膜分離技術概論－現状と展望－	
	10	＜水を再生する＞膜分離技術概論－現状と展望－	

	11	水環境生態系の保全と修復
	12	環境シミュレーションの方法と数値計算の原理
	13	コンピュータによる数値計算の手続き
	14	環境問題へのシミュレーションの応用例
	15	水環境の安全・安心に関する総括と評価試験
	16	評価結果に対する指導
キーワード	水、膜、廃棄物、水環境、分離、生物処理、シミュレーション	
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。必要があればプリントを配付し、参考書を紹介する。	
成績評価の方法・基準等	講義への積極的参加(40%)、レポート課題の評価(60%)の総合点で評価する。	
受講要件(履修条件)	特になし	
本科目の位置づけ	JABEE基準の(a)および(b)に相当する	
学習・教育目標	自主的探求能力の養成、多様性の理解、社会貢献への意欲の啓発	
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587043399	科目番号	05870433
授業科目名	●安全で安心できる社会Ⅱ(安全と安心の街づくり)		
編集担当教員	橋本 健夫		
授業担当教員名(科目責任者)	橋本 健夫		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	橋本 健夫, 植木 とみ子		
科目分類	全学モジュールⅡ科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 新館101講義室		
対象学生(クラス等)	経済(夜間主)		
担当教員Eメールアドレス	hasimoto@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	橋本 健夫 教育学部335号室		
担当教員TEL	橋本 健夫 095-819-2338 090-2587-5670		
担当教員オフィスアワー	お昼の時間(12:00-12:50) 予め在室を確認してください。		
授業のねらい	豊かな生活環境とは何か、またそれをどのように創るかを考える		
授業方法(学習指導法)	ディスカッション方式		
授業到達目標	真に民主政治を担える、自立した個人を育成する		
授業内容	回	内容	
	1	防災 平成11年福岡大水害の経験から	
	2	防災 平成17年福岡県西方沖大地震の経験から	
	3	防犯 子どもを守れ!	
	4	防犯 環境浄化運動	
	5	防犯 警察協議会会長の経験を通して、暴力団対策など	
	6	環境・街づくり ユニバーサルデザインの街	
	7	環境・街づくり 水資源をどう守るか	
	8	環境・街づくり ごみ減量	
	9	子育て・教育 母親の孤立を防ぐ	
	10	子育て・教育 地域子ども育成事業	
	11	子育て・教育 「学校はまち、まちは学校」	
	12	高齢者・障がい者 弱者支援とは	
	13	高齢者・障がい者 施設の適正配置	
	14	高齢者・障がい者 地域での共生	

	15	より豊かな生活環境とは 住まい方、文化を考える, だれが、どのように創るか
	16	定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書		植木とみ子著「市役所の女」海鳥社
成績評価の方法・基準等		課題30%, 授業参加度30%, 試験40%
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130562020050	科目番号	05620200
授業科目名	●健康・スポーツ科学		
編集担当教員	管原 正志		
授業担当教員名(科目責任者)	管原 正志		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	管原 正志, 中垣内 真樹, 西澤 昭, 山内 正毅, 大石 和代, 尾崎 幸生, 田井村 明博, 林田 雅希, 山崎 浩則, 田山 淳, 古林 正和		
科目分類	健・スポ科学科目、A健康コンディショニ、自由選択科目、健・スポ科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 新館101講義室		
対象学生（クラス等）	経済学部夜間主コース		
担当教員Eメールアドレス	sugahara@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部1F管原研究室（108）		
担当教員TEL	095-819-2355		
担当教員オフィスアワー	12:00~12:50		
授業のねらい	健康や身体運動に関する身体的、生理的特性、またはその社会的側面などについて理解を深め、実生活で役立つ知識の獲得をねらいとする。		
授業方法（学習指導法）	授業で配布する資料を用いて健康や身体運動に関する基礎知識を講義形式で説明する。適時、身近なデータを用いた計算、分析、各自のライフスタイルなどの振り返りなどの演習もおこない実生活に役立つ知識も提供する。		
授業到達目標	生活習慣に関連する身体的・精神的疾病の基礎を説明できるようにする。生活習慣と健康、身体運動と健康の関連性を説明できるようにする。個々の生活習慣を振り返り、生活習慣を少しでも改善できるようにする。		
授業内容	以下のテーマに従って健康や身体運動に関する身体的、生理的徳用またはその社会的側面などについて理解を深める。		
	回	内容	
	1	10月3日：管原正志；スポーツ活動と熱障害予防	
	2	10月10日：中垣内真樹；運動と健康（1）	
	3	10月17日：田井村明博；運動とI補糖 ^レ -代謝（1）	
	4	10月24日：田井村明博；運動とI補糖 ^レ -代謝（2）	
	5	10月31日：山内正毅；運動学習の心理学	
	6	11月7日：西澤 昭；リラクセーションの方法	
	7	11月14日：中垣内真樹；運動と健康（2）	
	8	11月21日：山崎浩則；青年期に健康を考える	
9	11月28日：山崎浩則；生活習慣病（1）		

	10	12月5日：古林正和；生活習慣病（2）
	11	12月12日：林田雅希；心の健康（1）
	12	12月19日：田山淳；心の健康（2）
	13	12月26日：尾崎幸生；歯と歯ぐきの健康
	14	1月9日：大石和代；青年期の性
	15	1月16日：管原正志；総括（まとめ）
	16	
キーワード		
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。必要に応じて資料を配付する。 参考書：学生と健康，（編）国立大学等保健管理施設協議会，南江堂	
成績評価の方法・基準等	レポートまたは小テストの合計100%。毎回のテーマに関するレポートを総合して評価する。 各週のレポートあるいは小テストは、10点満点で評価し、15回の平均で評価する。	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 6																		
開講期間																					
必修選択	選択	単位数	2.0																		
時間割コード	20130566011050	科目番号	05660110																		
授業科目名	●日本国憲法																				
編集担当教員	吉田 省三																				
授業担当教員名(科目責任者)	吉田 省三																				
授業担当教員名(オムニバス科目等)	吉田 省三																				
科目分類	人文・社会科学科目、自由選択科目、人文・社会科学科目																				
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目																		
教室	[経] 本館 2 2 講義室																				
対象学生（クラス等）	制限しない																				
担当教員Eメールアドレス	yosida-s@nagasaki-u.ac.jp																				
担当教員研究室	経済学部本館512																				
担当教員TEL	095-820-6397																				
担当教員オフィスアワー	授業終了後																				
授業のねらい	日本国憲法97条は、人権を「人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果」とであると同時に「過去幾多の試練に堪へ」てきたという。日本国憲法は、憲法「改正」という現在の「試練」に堪えられるか、憲法を人類の歴史のなかにおいてとらえ直してみよう。																				
授業方法（学習指導法）	教科書を使用し、人権の思想、人権のためのたたかい、日本国憲法の主要な事件、判例を解説する。																				
授業到達目標	世界および日本の憲法の歴史、憲法の基本的概念、主要な憲法判例を理解する。個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求する人間の育成を期する。																				
授業内容	<p>憲法の過去—立憲主義の歴史、現在—人権の実現の状況、未来—改憲問題について講義します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>憲法の過去：立憲主義、憲法とは何か。「人権を承認せず、権力の分立が無い人民は憲法をもたない。」</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ブルジョア革命と人権</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>人権宣言—合州国「独立宣言」・フランス革命「人権宣言」</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>日本の人権思想</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>日本国憲法とその歴史（1）</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>日本国憲法とその歴史（2）</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>憲法のキーワード：権利と義務（1）</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>憲法のキーワード：権利と義務（2）</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	憲法の過去：立憲主義、憲法とは何か。「人権を承認せず、権力の分立が無い人民は憲法をもたない。」	2	ブルジョア革命と人権	3	人権宣言—合州国「独立宣言」・フランス革命「人権宣言」	4	日本の人権思想	5	日本国憲法とその歴史（1）	6	日本国憲法とその歴史（2）	7	憲法のキーワード：権利と義務（1）	8	憲法のキーワード：権利と義務（2）
回	内容																				
1	憲法の過去：立憲主義、憲法とは何か。「人権を承認せず、権力の分立が無い人民は憲法をもたない。」																				
2	ブルジョア革命と人権																				
3	人権宣言—合州国「独立宣言」・フランス革命「人権宣言」																				
4	日本の人権思想																				
5	日本国憲法とその歴史（1）																				
6	日本国憲法とその歴史（2）																				
7	憲法のキーワード：権利と義務（1）																				
8	憲法のキーワード：権利と義務（2）																				

	9	憲法のキーワード：民主主義と権利保障（1）
	10	憲法のキーワード：民主主義と権利保障（2）
	11	6月26日 憲法のキーワード：民主主義と権利保障（3）
	12	憲法のキーワード：民主主義と権利保障（4）
	13	憲法と国際社会
	14	7月17日 憲法の未来：憲法「改正」問題（1）
	15	憲法の未来：憲法「改正」問題（2）
	16	定期試験
キーワード	立憲主義、民主主義、共和主義	
教科書・教材・参考書	<p>(◆は必携です)</p> <p>◆教科書 芦部信喜『憲法第五版』岩波書店</p> <p>◆教材 「日本国憲法」「大日本帝国憲法」等を収録する法令集</p> <p>●参考書 中江兆民『三酔人経綸問答』岩波文庫。 森英樹ほか『3・11と憲法』日本評論社、2012。</p>	
成績評価の方法・基準等	定期試験による(100%)	
受講要件（履修条件）	無し。	
本科目の位置づけ	市民の形成。	
学習・教育目標	授業の到達目標に同じ。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木6														
開講期間																	
必修選択	選択	単位数	2.0														
時間割コード	20130569061450	科目番号	05690614														
授業科目名	●オランダの文化																
編集担当教員	山下 龍																
授業担当教員名(科目責任者)	山下 龍																
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山下 龍																
科目分類	総合科学科目、総合科学科目、自由選択科目																
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目														
教室	[経] 新館201講義室																
対象学生（クラス等）	全学生																
担当教員Eメールアドレス	noboruy@nagasaki-u.ac.jp																
担当教員研究室	経済学部非常勤講師室・文教キャンパス 言語教育研究センター																
担当教員TEL	095-819-2080																
担当教員オフィスアワー	講義の前後																
授業のねらい	日本と北ヨーロッパの中心国の一つとして発展してきたオランダとの交流が江戸初期に長崎から始まり、その交流が現在まで400年以上続いています。この講義ではオランダの文化と歴史を中心に、北ヨーロッパの歴史的発展、または、長崎と深い関わりのある日蘭交流について、基本的な知識の修得と文化理解を目的とします。																
授業方法（学習指導法）	講義形式 この講義の為に作成した資料や視聴覚教材（powerpoint）を利用して、世界史が得意ではない学生にも、より分かりやすく、オランダの文化と歴史を紹介します。																
授業到達目標	オランダ・北ヨーロッパの文化と歴史、または、日蘭交流についての基本的な知識を修得します。																
授業内容	<p>ローマ時代前から現在までの歴史上の出来事を説明しながら、オランダの国とその発展を理解させます。オランダを知ることによって北ヨーロッパの文化の発展も理解することができます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オランダの紹介</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>9世紀までのオランダ ローマ帝国時代・キリスト教の流布・カール大帝の文化ルネッサンス</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>15世紀までのオランダ オランダ語文学の誕生・貿易国としての発展</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>16世紀までのオランダ エラスムスとヒューマニズム・ルターとプロテスタント教</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>16世紀までのオランダ オランダの独立戦争・ネーデルランデン7州連邦共和国の誕生</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>16世紀までのオランダ 15・16世紀の芸術家たち（ファン・エイク、ブリュゲルなど）</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	オランダの紹介	2	9世紀までのオランダ ローマ帝国時代・キリスト教の流布・カール大帝の文化ルネッサンス	3	15世紀までのオランダ オランダ語文学の誕生・貿易国としての発展	4	16世紀までのオランダ エラスムスとヒューマニズム・ルターとプロテスタント教	5	16世紀までのオランダ オランダの独立戦争・ネーデルランデン7州連邦共和国の誕生	6	16世紀までのオランダ 15・16世紀の芸術家たち（ファン・エイク、ブリュゲルなど）
回	内容																
1	オランダの紹介																
2	9世紀までのオランダ ローマ帝国時代・キリスト教の流布・カール大帝の文化ルネッサンス																
3	15世紀までのオランダ オランダ語文学の誕生・貿易国としての発展																
4	16世紀までのオランダ エラスムスとヒューマニズム・ルターとプロテスタント教																
5	16世紀までのオランダ オランダの独立戦争・ネーデルランデン7州連邦共和国の誕生																
6	16世紀までのオランダ 15・16世紀の芸術家たち（ファン・エイク、ブリュゲルなど）																

	7	17世紀のオランダ オランダ東インド会社の創立・日蘭交流
	8	17世紀のオランダ 黄金時代の芸術（レンブラント・フェルメールなど）・世界貿易中心のオランダ
	9	17世紀のオランダ 黄金時代の学者たち・黄金時代の英雄たち・奴隷制
	10	18・19世紀のオランダ ナポレオンの時代・ネーデルラント王国の誕生
	11	19・20世紀のオランダ ゴッホの芸術・女性権利運動・第1次世界大戦・20世紀の芸術（モンドリアンなど）
	12	20世紀のオランダ 第2次世界大戦・インドネシアの独立
	13	オランダの宗教・祭り・伝統
	14	オランダの教育・政治・世界の中のオランダ
	15	講義の総括
	16	定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書	教材：プリント教材 毎回配布します。	
成績評価の方法・基準等	成績評価の方法・基準等 成績評価は、○定期試験70%、授業中の提出物30%で行います。	
受講要件（履修条件）	全回出席が原則。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130569062850	科目番号	05690628
授業科目名	●長崎学		
編集担当教員	姫野 順一		
授業担当教員名(科目責任者)	姫野 順一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	姫野 順一		
科目分類	総合科学科目、総合科学科目、自由選択科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 新館 201 講義室		
対象学生（クラス等）	全学部		
担当教員Eメールアドレス	himeno@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	長崎の多様な機能と歴史的成り立ちを長崎学という地域学の体系で理解する。		
授業方法（学習指導法）	文書、絵画、古写真、器物などに触れながら、長崎を体系的に学習する。		
授業到達目標	長崎検定に挑戦できる学生の育成をめざす。		
授業内容	回	内容	
	1	長崎の歴史と長崎学	
	2	長崎の誕生	
	3	南蛮貿易と長崎	
	4	唐人貿易と長崎	
	5	出島の成立とその機能	
	6	出島の科学者たち	
	7	長崎版画に見る唐紅毛文化	
	8	蘭学物語	
	9	外国人居留地の形成	
	10	蘭学から洋学へ	
	11	写真技術の伝来	
	12	坂本龍馬の見た長崎	

	13	長崎を撮影した外国人写真家
	14	上野彦馬の生涯と写真
	15	明治・大正の長崎
	16	
キーワード	日蘭交渉、日中交渉、出島、蘭学、通詞、古写真、居留地、坂本龍馬、長崎学、原爆	
教科書・教材・参考書	参考書：姫野順一編『出島と西南雄藩』（九州大学出版会）、姫野順一著『龍馬が見た長崎』（朝日選書）、『長崎市史』（長崎市）	
成績評価の方法・基準等	毎回講義の概要をまとめ講義に対する感想を書いて提出する。	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ	教養科目として長崎の常識を身につける	
学習・教育目標	長崎の世界性を理解するグローバル人材の養成をめざす。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）	図書館の郷土資料コーナーやネットで関連することを調べる習慣をつける。	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130588020850	科目番号	05880208
授業科目名	●環境と進化と多様性		
編集担当教員	林 亮太		
授業担当教員名(科目責任者)	林 亮太		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	林 亮太		
科目分類	総合科学科目、総合科学科目、自由選択科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館 1 2 講義室		
対象学生（クラス等）	1年,2年,3年,4年		
担当教員Eメールアドレス	rhayashi72@gmail.com		
担当教員研究室	西海区水産研究所特任部長室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	環境に応じて多様化した生物の生活史を紹介し、「進化」について体系的に理解してもらう。		
授業方法（学習指導法）	スライド、ハンドアウト、板書きによる講義。不定期に課すレポートと発表で理解度を評価する。		
授業到達目標	進化の概観を理解する。		
授業内容	現在地球上には、様々な環境が存在し、それぞれの環境ごとに多様な生物が存在している。現在の全世界の既知の総生物種数は約175万種以上ともされている一方、未だ知られていない生物も多くいると考えられている。本講義では、多様な生物を生み出すメカニズムである「進化」をキーワードに、様々な生態系ごとにその環境条件の特徴とそれに適応して生息する生物たちの特徴について解説する。進化生物学、動物行動学、分子系統学などの諸分野の研究成果の紹介を通し、その密接な関係を理解することを目標とする。講義では特に教科書を指定しない。適宜参考文献を紹介する。		
	回	内容	
	1	成績評価法の説明、講義内容紹介	
	2	進化とは何か？	
	3	適応とは何か？	
	4	環境要因について	
	5	進化生態学とはなにか	
	6	海洋環境における進化・適応の例 1	
	7	海洋環境における進化・適応の例 2	
8	陸上における進化・適応の例 1		

	9	陸上における進化・適応の例2
	10	島という環境
	11	寄生・共生
	12	生物の絶滅
	13	外来生物問題
	14	生物多様性について
	15	講義の総括 (一項目が一回の講義に対応しているわけではなく、講義の震度に応じてスケジュールは調整・変更されます)
	16	
キーワード	生態学、進化、生物多様性	
教科書・教材・参考書	特に指定しない。適宜、資料を配布する。	
成績評価の方法・基準等	課題レポート(80%)、発表等(20%)で成績評価を行う。	
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		





タイトル「**2013年度シラバス(教養教育科目)**」、開講所属「**教養教育(夜間主)-モジュール I 科目(夜間主)**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火6
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20130586013750	科目番号	05860137
授業科目名	●安全で安心できる社会 I (健康と医療の安全・安心)		
編集担当教員	西田 孝洋		
授業担当教員名(科目責任者)	西田 孝洋		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	西田 孝洋,小守 壽文,江藤 宏美,木住野 達也		
科目分類	全学モジュール I 科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]新館101講義室		
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主		
担当教員Eメールアドレス	koyo-n@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	薬学部薬剤学研究室		
担当教員TEL	095-819-2453		
担当教員オフィスアワー	17:00~18:00		
授業のねらい	健康を維持するために日ごろ意識することが何か、医療とのかかわりを正しく理解するために必要な考え方を身につける。また、健康で安心した生活を送るために医療はどのようなかかわりを果たすのかを自ら考え、取り組む意識を育てる。		
授業方法(学習指導法)	教科書を用いない講義科目なので、種々の資料や教材及び手段(液晶プロジェクターによる映像等)を使用する。また、医療に関わる多様な分野の教員とともに、多様な方法により、「健康と医療の安全・安心」を考える。		
授業到達目標	医療とは、人間の健康の維持、回復、促進などを目的とした諸活動を意味する。ここでは、健康の維持と医療との関わりを正しく理解し、説明できる。		
	回	内容	
	1	生殖形成(小守)(10/1)	
	2	DNAの複製、組換え、修復(小守)(10/8)	
	3	遺伝要因による異常(小守)(10/15)	
	4	骨格系の遺伝性疾患(小守)(10/22)	
	5	遺伝子組換え技術(木住野)(10/29)	
	6	遺伝子組換え技術と生物多様性(木住野)(11/5)	

授業内容	7	遺伝子組換え技術と医療(木住野)(11/12)
	8	薬の功罪1(西田)(11/19)
	9	薬の功罪2(西田)(11/26)
	10	薬害(西田)(12/3)
	11	麻薬と覚醒剤(西田)(12/10)
	12	現代社会における子ども・女性・家族の危機①ライフイベントと起こりうる危機(江藤)(12/17)
	13	現代社会における子ども・女性・家族の危機②ドメスティックバイオレンスの発生と危機(江藤)(12/24)
	14	現代社会における子ども・女性・家族の危機③生命誕生と新しいメンバーを迎えた家族の危機(江藤)(1/7)
	15	現代社会における子ども・女性・家族の危機④さまざまな葛藤と意思決定支援(江藤)(1/14)
16		
キーワード	遺伝、遺伝子組換え、家族、女性、子ども、薬の副作用	
教科書・教材・参考書	特に指定しない。	
成績評価の方法・基準等	積極的授業参加態度(40%)、レポート(40%)、小テスト(20%)	
受講要件(履修条件)	特に指定しない。	
本科目の位置づけ	教養科目	
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		





タイトル「**2013年度シラバス(教養教育科目)**」、開講所属「**教養教育(夜間主)-モジュール I 科目(夜間主)**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20130586014150	科目番号	05860141
授業科目名	●安全で安心できる社会 I (リスク社会と社会科学)		
編集担当教員	丸山 幸宏		
授業担当教員名(科目責任者)	丸山 幸宏		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	丸山 幸宏		
科目分類	全学モジュール I 科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]新館101講義室		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	maruyama@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館530号室		
担当教員TEL	095-820-6344		
担当教員オフィスアワー	木曜日17:30~18:00		
授業のねらい	LTD学習法を通して学習課題(金融リスク評価法)の理解を深める。		
授業方法(学習指導法)	グループに分かれ、LTD学習法(話し合い学習法)を通して学習課題の理解を深める。		
授業到達目標	LTD学習法を通して学習課題(金融リスク評価法)の理解を深め、論理的思考能力を高める。さらに問題解決能力の向上、ディスカッション・スキルを向上、対人関係スキルの発達させる。		
授業内容	金融の世界では漠然とした「(金融商品の)危険性」を確率・統計を用いて把握するとき、「金融リスク」と呼ぶ。金融リスクの基本的な指標である「ボラティリティ」、すなわち株価や円相場などの変化率の「標準偏差」の意味を理解する。簡単な実験(シミュレーション)を繰り返し、ボラティリティの数字が示すものを感覚的に把握する。		
キーワード	金融リスク、確率・統計、資産運用、ボラティリティ、リターン、シミュレーション		
教科書・教材・参考書	テキスト: 吉本佳生著、確率・統計でわかる「金融リスク」のからくり、ブルーバックス		
成績評価の方法・基準等	グループワークへの貢献度		
受講要件(履修条件)	モジュールテーマ「安全で安心できる社会」受講者		
本科目の位置づけ	モジュールI科目		

学習・教育目標	金融リスクの基本的な指標である「ボラティリティ」の意味を理解する。簡単な実験(シミュレーション)を繰り返し、ボラティリティの数字が示すものを感覚的に把握する。
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2013年度シラバス(教養教育科目)**」、開講所属「**教養教育(夜間主)-モジュール I 科目(夜間主)**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	水6
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20130586014550	科目番号	05860145
授業科目名	●安全で安心できる社会 I (科学と技術の安全・安心)		
編集担当教員	林 秀千人		
授業担当教員名(科目責任者)	林 秀千人		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	林 秀千人, 高橋 和雄, 田中 俊幸, 久保 隆		
科目分類	全学モジュール I 科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]新館101講義室		
対象学生(クラス等)	経済学部(夜間主)		
担当教員Eメールアドレス	hidechto@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	工学部流体エネルギー工学研究室		
担当教員TEL	095-819-2516		
担当教員オフィスアワー	月から金8時から8時30分		
授業のねらい	危険や不安に、どう考え、何をなすべきか、どのように対処するのかを学び、危険や不安のない安全・安心な社会の構築に貢献しうる知識と理解を涵養する		
授業方法(学習指導法)	基本的な事項について、講義により学習をする。さらに、テーマをもとに、みんなで安全・安心について考えて意識を高める。		
授業到達目標	安全・安心な社会を構築するためには、目指すべき安全で安心できる社会のイメージを明確にすることが必要です。安全は、普段は見過ごし危険や事故に遭遇したときに意識するものですが、普段の取り組みが重要となります。本授業では、安全とは何か、安心とは何かについて、「災害・事故からの社会システムの安全・安心(科学と技術の安全・安心)」の観点から、自ら努力をして維持することが重要であることを認識するとともに、日常意識をどのように保てばいいのか、自らが考えることで安全・安心が実現できることを理解を深める		
	人間が安全で快適な生活を送るために、科学技術の発展が図られてきた。一方で、個人などでは処理できないさまざまなシステムが働いている。その中で、安全を維持し安心を図るために必要な基本的な考え方を習得するとともに、組織の中で個人が取り組む安全・安心の意識を育てる。 第1回 安全と安心の基本的な考え方について		

授業内容	<p>第2回 災害とリスクマネジメントについて</p> <p>第3回 安全文化について</p> <p>社会では様々な事故が発生し、貴い命が失われることも多い。そのような事故が起こらないように安全を確保することが重要である。そのためには何が重要かを事故の事例とその原因を考えながら学習する。</p> <p>第4回から第7回 自然災害と安全・安心</p> <p>長崎の豪雨災害をはじめ、これまで発生した災害を教訓に日本各地で防災の都市づくりが進められている。国や自治体レベルで行われている施策を学び、さらに災害が起こったときの備えについて学習する。</p> <p>第8回から第11回 化学物質の安全・安心</p> <p>身のまわりのさまざまな物質に関して、安全を確保するための規制や法律等さまざまな考え方をもとに、安全への取り組みを紹介し、安全安心を考える。する。</p> <p>第11回から第15回 電磁波がもたらす影響について</p> <p>身のまわりに生じている電磁波を中心に、目に見えないものが身体へ及ぼす影響について、安全をどうとらえ、安全安心へどのように取り組まれているかを紹介し、安全安心を考える。</p>
キーワード	科学技術の安全、システムの安全と安心、安全文化と安心
教科書・教材・参考書	安全・安心工学入門(古今書院)、必要に応じて資料を配布する。
成績評価の方法・基準等	数回のレポートにより評価
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**経済学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木7
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20131505000703	科目番号	15050007
授業科目名	●現代経済概論		
編集担当教員	藤田 渉		
授業担当教員名(科目責任者)	藤田 渉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤田 渉		
科目分類	学部モジュール科目、学部導入科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館1 2 講義室		
対象学生 (クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス	wfujita@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所204		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	木曜日17:40~18:00 (必ずEメールでアポイントメントをとること)		
授業のねらい	①経済学的なものの見方について知識を取得する。 ②経済学の用語、論理についての知識を取得する。 ③経済学の考え方と、現実社会の読み解き方について知識を取得する。		
授業方法 (学習指導法)	テキストおよび配布資料に沿って講義形式で行う。毎回の課題提出で理解を深める。		
授業到達目標	①経済学を学ぶにあたっての足がかりを形成する。 ②基本的な経済学用語と使われ方について理解する。 ③経済学の考え方と、現実社会の事象について一応の対応ができる。		
授業内容	人々のあれこれと欲しがる欲望に対して、限りのあるモノをどのような用途にどのように振り分けたらよいのか、ということが経済学の考え方の第一歩です。ここから始まり、モノや労働の価格というものは何を意味するのか、また消費者としての自分たち、また労働力としての自分たちは、大きな経済社会の中で企業や政府と並んで、どのように考えるべきなのかを理解して行きます。さらに、マクロ経済学、またミクロ経済学への関連といった進んだ考え方に触れて行きます。		
	回	内容	
	1	イントロダクション・ミクロ経済学とは何か・マクロ経済学とは何だろうか(1)	
	2	マクロ経済学とは何だろうか(2)	
	3	マクロ経済活動の主役は誰か(1)	
	4	マクロ経済活動の主役は誰か(2)	
	5	マクロ経済活動の主役は誰か(3)	
	6	GDPはどのように決まるか(1)	
	7	GDPはどのように決まるか(2)	
8	中間総括 (講義中の小テスト・課題提出などを含む)		

	9	財政政策とは何だろうか(1)
	10	財政政策とは何だろうか(2)
	11	財政政策とは何だろうか(3)
	12	金融政策とは何だろうか(1)
	13	金融政策とは何だろうか(2)
	14	金融政策とは何だろうか(3)
	15	経済学の入り口をふりかえる
	16	授業の総括（試験含む）
キーワード	経済学、マクロ経済学、ミクロ経済学	
教科書・教材・参考書	教科書：井堀利宏『図解雑学マクロ経済学』ナツメ社、2002年 嶋村紘輝・横山将義『図解雑学ミクロ経済学』ナツメ社、2003年	
成績評価の方法・基準等	期末試験70%、課題・レポート・小テスト等30%	
受講要件（履修条件）	特に無し	
本科目の位置づけ	学部モジュール科目、学部導入科目	
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**経済学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20131505000503	科目番号	15050005
授業科目名	●現代経営概論		
編集担当教員	宇都宮 譲		
授業担当教員名(科目責任者)	宇都宮 譲		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	宇都宮 譲		
科目分類	学部モジュール科目、学部導入科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館12講義室		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	yuzuru@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所209室		
担当教員TEL	+81958206384 (384)		
担当教員オフィスアワー	月曜日5限		
授業のねらい	1.現代企業の生成・発展を、形態と管理手法という観点から理解すること。 2.各専門科目がいかなる背景を有して成立しているか把握すること。		
授業方法(学習指導法)	講義と試験		
授業到達目標	上記観点について、概念と現象とを対応させることができるようになる		
授業内容	回	内容	
	1	イントロダクション : 講義目標と方法について説明する	
	2	企業形態1/2 : 資金調達法に着目、株式会社生成に至る過程を概説する。	
	3	企業形態2/2 : 株式会社における周遊と経営の分離とその問題点について論じる。	
	4	企業組織1/2 : ライン組織やライン=スタッフ組織など諸形態について、発生と長短を論じる	
	5	企業組織2/2 : 事業部制生成と発展について、概説する。	
	6	工程管理1/2 : 生産計画、特に日程計画および工数計画について、手法を運用しながら解説する。	
	7	工程管理2/2 : 工程分析と作業研究について、意義と手法を概説する。	
	8	科学的管理法1/2 : 概要と取り組む諸活動を、背景に言及しながら論じる。	
	9	科学的管理法2/2 : 科学的管理法以降に現れた、様々な動機付け手法について解説する。	
	10	品質管理1/2 : 品質管理が掲げる目的と手法を、練習問題を取りまぜながら解説する。	
	11	品質管理2/2 : 近年における検査および品質保証活動について、意義を概説する。	
	12	人事管理 : 労働者を合理的に活用する諸活動について、概説する。	

	13	労働生産性：企業活動から得られる成果を評価する一指標について、計算しながら解説する。
	14	労働生産性：企業活動から得られる成果を評価する一指標について、計算しながら解説する。
	15	環境管理：自然環境に負荷を与えないように、なにをすべきか論じる。
	16	試験
キーワード		
教科書・教材・参考書	教員がハンドアウトを作成・配布する。	
成績評価の方法・基準等	試験：80% 小テスト：20%	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**経済学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 7
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20131505000903	科目番号	15050009
授業科目名	●現代経済法概論		
編集担当教員	井田 洋子		
授業担当教員名(科目責任者)	井田 洋子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	井田 洋子, 大内 和直, 笹川 篤史, 吉田 省三, 張 笑男		
科目分類	学部モジュール科目、自由 (全学・専門)		
対象年次	1年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館 1 2 講義室		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	smile@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館506		
担当教員TEL	095-820-6401		
担当教員オフィスアワー	火曜日16:30~17:30		
授業のねらい	狭義の経済法(独占禁止法)に留まらず、憲法、民法、商法、会社法、税法等を含めた幅広い法律の基本的知識を学ぶことによって、法と経済社会に関する現代的課題についての理解を深める。		
授業方法 (学習指導法)	それぞれの教員による授業計画に沿ったプリント資料等の配布に基づく講義形式。		
授業到達目標	①憲法、民法、商法、会社法、税法、独占禁止法等に関する法的言語の習得及び基本的な内容の理解に加え、②現代社会の様々な問題に対する法的判断を含めた具体的解決策を導くことができることを目指す。		
授業内容	5人の担当教員が、それぞれ各自の専門分野を中心に日本のみならず国際社会における法規制の歴史や現状について触れる。		
	回	内容	
	1	法とはなにか (井田)	
	2	憲法の意義と役割 (井田)	
	3	3.11後の日本と憲法 (井田)	
	4	資金を得るための契約 (大内)	
	5	労働力を得るための契約 (大内)	
	6	土地を得るための契約 (大内)	
	7	日本経済法略史—戦時統制・戦後改革・高度成長・新自由主義 (吉田)	
	8	「優越的地位の濫用」とは何か—東京電力事件・FC契約など (吉田)	
	9	電力市場における競争—公取委報告書(2012)の検討 (吉田)	
10	企業の形態・会社の種類と機関 (張)		

	11 会社の資金調達 (張)
	12 会社の組織再編 (張)
	13 経済取引と租税(1)(笹川)
	14 経済取引と租税(2)(笹川)
	15 経済取引と租税(3)(笹川)
	16 まとめ (井田)
キーワード	国家と法、経済と法、市民と法、個人と法
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。 【参考書】 (第4-6回) 甲斐・乾・椿『新民法概説(2)』(第3版) 有斐閣 (第7回) 大日方純夫他著『日本近現代史を読む』新日本出版社、2010年、中村正則『戦後史』岩波新書、2005年、高瀬雅男「独占規制法制の変容と法」民主主義科学者協会法律部会編『法律時報増刊 改憲・改革と法』日本評論社、2008年。 (第8回) 公正取引協会編『優越的地位濫用規制の解説』(別冊公正取引 n. 1)、公正取引協会、2011年、本間重紀編『コンビニの光と影』花伝社、1999年。 (第9回) 公正取引委員会「電力市場における競争の在り方について」2012年9月。http://www.jftc.go.jp/pressrelease/12.september/12092101hontai.pdf (第13-15回) 関子善信『税法概論』大蔵財務協会
成績評価の方法・基準等	5名の教員それぞれによるレポート評価(各20%)の総合により行う。
受講要件(履修条件)	特になし。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**経済学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20131505000303	科目番号	15050003
授業科目名	●現代金融概論		
編集担当教員	深浦 厚之		
授業担当教員名(科目責任者)	深浦 厚之		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	深浦 厚之		
科目分類	学部モジュール科目、自由 (全学・専門)		
対象年次	1年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館1 2 講義室		
対象学生 (クラス等)	1年		
担当教員Eメールアドレス	afukaura@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所210		
担当教員TEL	095-820-6359		
担当教員オフィスアワー	火曜日の午後5時40分から午後6時および午後7時40分から7時50分		
授業のねらい	「金融」とは単純に言えばお金の話です。お金の役割を中心に金融を学ぶ上で必要な基本的な問題について講義します。		
授業方法 (学習指導法)	講義		
授業到達目標	単位取得後は、金融について効果的に学ぶために知っておく必要がある基礎的な知識・概念・制度について理解し、説明できることを目標とします。		
授業内容	以下の11のテーマについて講述します。 第1講：金融を学ぶ視点 第2講：オカネとは何か 第3講：価格とは何か 第4講：物価とは何か 第5講：貯蓄とは何か 第6講：利子率とは何か 第7講：信用とは何か 第8講：資金調達とは何か 第9講：レバレッジとは何か 第10講：エクイティとは何か 第11講：破産とは何か		
キーワード	金融、貨幣、ファイナンス		
教科書・教材・参考書	特になし。必要な資料はそのつど配布します。		
成績評価の方法・基準等	学期末試験		
受講要件 (履修条件)	特になし		
本科目の位置づけ	経済学部1年生が学習する導入科目であるとともに、昼間コースの一つであるファイナンスコースの学習内容を反映した基礎的な科目です。		

学習・教育目標	経済学部4年間で必要とされる基本的な金融知識を習得しようとする科目です。
備考（URL）	
備考（準備学習等）	「お金の不思議」、国立歴史民俗博物館編、山川出版社 「お金の歴史全書」、ジャナサン・ウイリアムズ（湯浅赳夫訳）、東洋書林 「金融論入門」、藤原賢哉・家森信善、中央経済社



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**経済学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20131505001103	科目番号	15050011
授業科目名	●国際関係概論		
編集担当教員	青山 繁		
授業担当教員名(科目責任者)	青山 繁		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	青山 繁		
科目分類	学部モジュール科目、自由 (全学・専門)		
対象年次	1年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館 2 2 講義室		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	最初の授業で通知する		
担当教員研究室	本館602		
担当教員TEL	最初の授業で通知する		
担当教員オフィスアワー	最初の授業で通知する		
授業のねらい	国際社会の歴史の変遷、国際社会が抱える諸問題などについて基礎的理解を得ることを目的とする。		
授業方法 (学習指導法)	講義形式で行う。		
授業到達目標	現代の国際社会について理解を深めるために必要な素養を身につける。		
授業内容	第 1回 オリエンテーション 第 2回 国際社会の現状 第 3回 国際関係の歴史の変遷(1) 第 4回 国際関係の歴史の変遷(2) 第 5回 国際社会が抱える諸問題(1) 第 6回 国際社会が抱える諸問題(2) 第 7回 国際社会が抱える諸問題(3) 第 8回 国際取引(1) 第 9回 国際取引(2) 第10回 国際取引(3) 第11回 国際取引(4) 第12回 国際協調(1) 第13回 国際協調(2) 第14回 国際協調(3) 第15回 授業の総括 第16回 試験		
キーワード			
教科書・教材・参考書	資料を配付する。		

成績評価の方法・基準等	定期試験（100%）
受講要件（履修条件）	特になし。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.